

東京大新能

番組表

平成二十六年八月二十八日(木)十六時半開場 十八時開演 会場/東京都庁舎・都民広場

入門能楽鑑賞講座

半田 晴久 (Ph.D.)

(中国国立浙江工商大学日本文化研究所教授・東南アジアテレビ局解説委員長)

十八時

東川 尚史

住吉明神 渡邊荷之助

能高砂

住吉明神 渡邊荷之助
從者 矢野 昌平
友成 福王 和幸
從者 村瀬 提

問 所の者 善竹大二郎

後見 辰巳満次郎
小林 晋也

地謡

藤井 秋雅 澤田 宏司
金森 良充 宝生 和英
辰巳大二郎 山内 崇生
當山 淳司 亀井 雄二

狂言 仏師

すっぱ 善竹 十郎

田舎者

善竹富太郎

後見 野島 伸仁

能是界

從僧 村瀬 提
高僧 福王 和幸
從僧 村瀬 慧

問 能の力 善竹富太郎

大鼓 柿原 光博
小鼓 住駒 充彦

太鼓 徳田 宗久
笛 栗林 祐輔

後見 小林 晋也
辰巳大二郎

地謡

藤井 秋雅 亀井 雄二
金森 隆晋 小倉 敏克
金森 良充 山内 崇生
當山 淳司 東川 尚史

能「高砂」

「高砂」は「羽衣」ともにその知名度において双璧といつてよいだろう。まったくの門外漢でも、「高砂」といえば能のことだとわかる筈である。

有名な「高砂」の浦舟に帆をあげて「小謡」や「四海波」など、この曲の節は婚礼の席にはよく歌われることもあつて馴染みが深いわけだが、落語にも「高砂」というのがあり、また川柳には「高砂も婆の方は熊手なり」をはじめたくさん出ているのをもみても、昔から大衆にもつと親しまれてきた曲といつてよいだろう。

肥後国(熊本県)阿蘇の宮の神主友成(ワキ)は、都見物を思い立ち旅に出る。途中播州(兵庫県)高砂の浦の見物に立ち寄り、辺りの景色を眺めていると、そこへ竹把(熊手)と杉箒を持った老人夫婦(前シテツ)がやってくる。松の木陰を掃き清める。友成は、有名な高砂の松はどれかと尋ね、高砂の松と住吉の松とは場所が離れているのに、なぜ相生の松と呼ばれるのかと、その理由を問いたす。老人はこの松こそ高砂の松であり、所をへたてていても夫婦の仲は心が通うもので、現にこの姥は当所の者、尉は住吉の者だといふ。そして老夫婦は、さまざまな故事をひいて松のめでたさを語り、御代の榮を寿ぐが、やがて実相生の松の精であることを明かし、住吉でお待ちするからと告げ、小舟に乗って沖の彼方へ消えてゆく。(中入り)

友成は、所の者(アイ)から再び相生の松の話の話を聞き、先程の老夫婦の話をする、それは奇特なことだからと、早速自分の新造の舟に乗って住吉へ行くようにと勧められる。そこで友成たちは高砂の浦から舟に乗り住吉へと急ぐ。住吉へ着くと、すでに夜も更け月の光に残雪が映える頃、住吉明神が出現して、千秋万歳を祝つて颯爽と神遊びの舞を舞い、国家の繁栄を祝福する。

前半は、長寿と夫婦の変わらぬ愛情を賛美し松のめでたさを説く厳肅さ、後半は、テンポの速い(神舞)を舞う爽快さと鮮烈な印象。全段を通じて爽やかな味わいがあり、力強さと気品に満ちた能である。世阿弥作の代表的な神能。

狂言「仏師」

お堂を建てたが本尊の仏像がない。そこで仏像を求めに都へ上った田舎者が、みずから真仏師と名乗るすっぱ(詐欺師)に行き合い、等身大の吉祥天女を注文する。そして、制作に要する期間を問われたすっぱは、明日までに作る約束をしよう。そこで、自身で面をかぶって仏像になりすまし、田舎者をだますうとする。翌日、約束の場所へきた田舎者が、仏に触れてみると暖かいのに不審をもつ。その上、印相(格好)が気に入らないのであれこれ注文を出すので、そのたびに面をはずして仏師として対応するが、ついに正体を見破られて逃げ込む。

田舎者をだますとすると、相手をなめてかかったために、かえって自分がまごつかされることになる。狂言面の乙を使つてせわしくなく仏と仏師を仕分けるすっぱが、その使い分けにまごつくところがおかしい。前半はセリフ、後半は型に笑いがあふれる。

能「是界」

観世流では善界と書くが、能には本曲のような天狗を主人公とした作品に、他に「車僧」「大会」など五番あるが、「鞍馬天狗」を除いていずれも仏法の敵として登場する。天狗ははじめ山伏姿で現れるのがパターンになっているので、山岳で修行を積んだ山伏と天狗とが相通じる存在だと考えられていたことが分かる。しかし、能の天狗は、たいてい最後に仏敵として退治されてしまう。

中国の天狗の首領である是界坊(シテ)は唐の仏教僧をこごとく天狗道に誘い入れたので、次は日本の仏法を妨げようと思ひ飛來する。そして、愛宕山の太郎坊(ツレ)を案内役にして比叡山に向かう。(中入り)勅命を受けた比叡山の僧(ワキ)の前に、雷鳴とともに天地鳴動して天狗姿の是界坊が現れ、僧たちを魔道に誘惑しようとする。そこで僧は悪魔降伏のため不動明王を念ずると、山王権現をはじめ降魔の諸天が現れたので、さすがの是界坊も力を失つて退散する。というのが粗筋である。

前場はあまり動きがなく、詞章が仏教用語がまじつて難解だが、謡はリズム感があつて聞きどころである。後場は一転して、「大癡見」の面を着け赤頭(大兜巾)大きな羽団扇をもつて登場した天狗姿の是界坊が、僧に襲いかかる様子をタイナミックな動きで見せる場面が、緩急、剛柔の変化があり一種の滑稽味があつて面白い。

ありようは、国威宣揚と仏教賛進を狙つた作品と言われるが、文学的な味わいがあり、天狗物の秀作と言えよう。

解説 (堀上 謙/能楽評論家)

主催/お問い合わせ: NPO法人 世界芸術文化振興協会 ☎03-5336-3507

東京都杉並区西荻南 2-18-9 2階

後援: 文化庁 外務省 東京都 カンボジア王国政府 駐日カンボジア王国大使館 駐日エジプトアラブ共和国大使館 文化・教育・科学局

産経新聞社 毎日新聞社 JFN TOKYO FM TOKYO MX

協力: AQUA CITY ANA KEIO PLAZA HOTEL JAPAN AIRLINES 新宿ワシントンホテル HYATT REGENCY ホテル グランパシフィック LE DAIBA ゆりかもめ たちばな出版

※若干の雨の場合は決行致しますので、雨具の準備をお願い致します。 ※開場～開演までの間、エジプトコーナーやカンボジアコーナーで、文化、舞踊の紹介があります。 ※一部を除き、全席自由席となっております。 ※当日は、会場の広さに対してあまりにも多くの方がお越しになった場合に限り、お入り頂けない場合がございます。予めご了承下さい。

